

色彩と柄パターンの嗜好性に関する 5 か国比較調査

a comparative study of color and pattern preference in five countries

稲葉 隆 Takashi Inaba

日本カラーデザイン研究所

Nippon Color & Design Research
Institute INC.**Keywords:** 色彩嗜好, 柄嗜好, 国際比較

1. はじめに

グローバルな製品展開を行う場合、対象国・地域の嗜好性×商品特性を考慮しなければならない。本調査研究は色彩嗜好の国際比較により国・地域による嗜好性の共通点・相違点を探り、グローバルな製品色彩の展開に役立てることを目的としている。同時に配色や形状構成の一指針として柄パターンの嗜好性との関連を考察する。

2. 調査概要

調査は2011年9月～11月に日本(東京)、英国(ロンドン)、米国(LA)、中国(上海)、シンガポールにおいておこなった。対象者(N=1224)は各国とも20代・30代・40代・50代の男女で年代・性はほぼ均等である。調査方法はカラーサンプルボードを提示した自記入式アンケートによる会場調査である。

国	日本	英国	米国	中国	シンガポール	合計
N	348	220	208	220	228	1224

表1 各国の調査対象者数(人数)

提示したカラーサンプルは①単色 48 色、②柄 40 タイプの 2 種類で、①に関しては a.好きな色、b.身につけたい洋服やアクセサリの色、c.部屋に置きたいソファやカーテンの色、d.持ち歩いて使いたい小型デジタル機器の色を各 5 色以内、②に関しては好きな柄を 5 つ以内で選択させた。

分析は国×性×年代によるクロス集計、数量化Ⅲ類、クラスター分析、因子分析をおこなった。

3. 分析結果

1) 国による色彩嗜好差

表2、3が各国の性別での嗜好上位色である。全般に男性が無彩色中心に青系・赤系を好む傾向が共通してみられ、女性はより有彩色志向が強く赤系・赤紫系を中心に明るいトーンから鮮やかな

トーンまでを好んでいる。男性に比べ女性は国による嗜好色の差異が大きいことも特徴である。

順位	1	2	3	4	5
日本/男性	黒 49.7%	白 27.5%	青 25.1%	銀 24.6%	紺 23.4%
英国/男性	黒 50.5%	ダークグレー 25.2%	銀 23.4%	紺 21.6%	赤 18.9%
米国/男性	黒 51.4%	ダークグレー 31.4%	紺 27.6%	銀 27.6%	青 25.7%
中国/男性	黒 50.0%	白 30.9%	銀 22.7%	ライトグレー 21.8%	ダークグレー 17.3%
シンガポール/男性	黒 55.3%	白 33.3%	ダークグレー 24.6%	銀 22.8%	赤 21.9%
五カ国総合/男性	黒 51.2%	白 24.7%	銀 24.2%	ダークグレー 23.1%	紺 19.6%

表2 各国男性の嗜好色結果(上位 5)

順位	1	2	3	4	5
日本/女性	ピンク 32.2%	白 22.6%	ベビーピンク 22.0%	赤紫 18.6%	赤 16.9%
英国/女性	黒 33.9%	赤紫 22.9%	エンジ 22.0%	赤 21.1%	銀 18.3%
米国/女性	赤 26.2%	パープル 22.3%	赤紫 22.3%	青 20.4%	エンジ 20.4%
中国/女性	ピンク 33.6%	ベビーピンク 22.7%	赤 21.8%	白 20.9%	ベビーブルー 18.2%
シンガポール/女性	赤紫 36.0%	エンジ 25.4%	黒 25.4%	白 24.6%	ピンク 20.2%
五カ国総合/女性	赤紫 22.0%	ピンク 21.9%	黒 21.4%	赤 20.6%	白 17.5%

表3 各国女性の嗜好色結果(上位 5)

地域的な特徴として白の嗜好性は男女ともアジア地域(日本・中国・シンガポール)で高い。※1 逆に英国女性は黒に対する嗜好性が際立って高く対照的である。男性において青系に対する嗜好性が高いのは米国と日本であり、特に米国は嗜好色上位 10 色中 5 色が青系のトーン違いで占められている。しかし青系の嗜好性が国を越えて高いという調査結果(千々岩,1999)※2 に対し、本調査では男性で黒の嗜好性が突出して高く、女性で赤紫やピンクという暖色への嗜好性が高いという結果を得た。さらに女性の場合、同じ暖色でも日本・中国では明るいトーンのピンク、英国・米国では暗いトーンのエンジが好まれるように明暗のトーン差が地域により顕著である。シンガポールは両色共に嗜好しており、地理的にはアジアに属しながら、文化的な複合性により西欧的嗜好性

を併せ持っていることによると推測される。このように女性の嗜好性を中心に5カ国を相対的に比較すると日本・中国が高明度のソフトな嗜好性、英国・米国が高彩度あるいは低明度のハードな感覚を有していると言える。両感覚を持つシンガポールの色彩嗜好性は独自性と共に国際的な指標としても興味深い。

2) 柄嗜好と色彩嗜好の関連

柄パターンに関する嗜好性も男女で大きく異なっている(表4)。また色彩嗜好同様に国による違いは男性より女性において顕著にみられた。さらに柄の嗜好性要因を数量化Ⅲ類により抽出すると、Ⅰ軸が配色に起因するもの(有彩色・高彩度・多色使い/無彩色・低彩度・同系色使い)であり、Ⅱ軸が形状性の要因(単純な形状構成・点や線のリピート等/複雑な形状構成・細密・装飾的な形状のミックス等)となった。柄嗜好においても色彩(配色)の影響は大きく、それが性差につながっていると言える。

順位	1	2	3	4	5
五カ国総合/男性	アール・ギル (無彩色) 26.5%	市松 (黒白) 22.3%	レジメンタル (暗灰) 21.4%	ピンストライプ (水色) 16.4%	グレンチェック (暗灰) 16.2%
五カ国総合/女性	ハート (ピンク) 18.9%	つた柄 (紫地に黒) 16.6%	カラフルドット (多色) 14.0%	ドット (ブルー) 12.9%	マルチストライプ (多色) 12.7%

表4 五カ国総合男女の嗜好柄結果(上位5)

3) 色彩嗜好クラスター

色彩の嗜好性によるタイプ分けをするためにまず嗜好要因を抽出すると(数量化Ⅲ類)、次の3軸が得られた。

- I. 主に彩度に起因する要因(清色調・高彩度・有彩色/濁色調・低彩度・無彩色)
- II. 主に明度に起因する要因(低明度/高明度)
- III. 主に色相に起因する要因(暖色系/寒色系)

これらを用いてクラスター分析をおこない表5にある10の色彩嗜好タイプに分類した。たとえば5カ国男女を通じて最も嗜好性の高い黒は1. ニュートラルカラー嗜好タイプと2. 寒色系の暗色嗜好タイプ、8. 暗いトーン全般と無彩色嗜好タイプが主な嗜好層となっている。同様にピンクは5, 6, 7のクラスターが主たる嗜好層になる。製品色として複数の色を用意する場合、1色で嗜好性の異なる複数のユーザー層をカバーできれば効率的なカラーアソートが組み、そのユーザー層の

柄や形状デザインの嗜好性が予測できれば的確なデザイン戦略にもつながる。この結果はグローバルな製品デザイン展開のためのひとつのデータとして活用できるだろう。

色彩嗜好クラスター	比率	性・年代の特徴	国の特徴
1. ニュートラル嗜好タイプ (黒、銀、白、ライトグレー、ダークグレー)	14.9%	++男性20・30代 +男性40・50代 -女性20・30代	+UK
2. 寒色系の暗色嗜好タイプ (黒、紺、ダークグレー、銀、グレイッシュブルー、鉄紺)	14.2%	++男性20・30代 ++男性40・50代 -女性20・30代 -女性40・50代	+US +SG -CN
3. 寒色系の高彩度色嗜好タイプ (マリンブルー、青、パープル、黒、赤、スカイブルー、サックス)	13.2%	+男性20・30代	+JP ++US
4. 暖色系のディープトーン嗜好タイプ (エンジ、赤、深緑、ワイン、赤紫)	11.4%	+女性40・50代	++US
5. 暖色系の高彩度色嗜好タイプ (赤紫、ピンク、赤、オレンジ、ライラック、コーラル)	10.8%	++女性20・30代 ++女性40・50代 -男性20・30代 -男性40・50代	+SG
6. 寒色系の明るいトーン嗜好タイプ (サックス、ラベンダー、ピンク、スカイブルー、ペパーミント、パウダーブルー、ベビーブルー)	10.5%	++女性20・30代	+CN
7. 淡いトーン全般の嗜好タイプ (ベビーピンク、ピンク、ベビーブルー、白、ピンクベージュ、コーラル)	8.9%	++女性20・30代 ++女性40・50代 -男性20・30代 -男性40・50代	+JP ++CN -US
8. 暗いトーンと無彩色嗜好タイプ (黒、こげ茶、銀、ダークグレー、エンジ、グレイッシュブラウン)	8.0%	+男性20・30代 +男性40・50代	+CN
9. 暖色系のこく暗いトーン嗜好タイプ (エンジ、こげ茶、オリーブ、グレイッシュブラウン、ワイン、ペールオリーブ、サンド)	6.0%	++女性40・50代	+UK +US
10. 濁色嗜好タイプ (ベージュ、ピンクベージュ、オールドローズ、カーキ、ペールオリーブ、サンド、グレイッシュブラウン)	2.2%	++女性40・50代 +男性40・50代 -男性20・30代	++CN

++=全体との差が+10ポイント以上、+=同+5ポイント以上、-=同-10ポイント以上
JP=日本、UK=英国、US=米国、CN=中国、SG=シンガポール

表5 色彩嗜好クラスターの概要

4. 考察

色彩嗜好傾向のリージョナルな違いとしてアジア=明るくソフト、欧米=暗くはっきりとしたハード感覚が認められた。また色彩・柄ともにいずれの国でも性差による嗜好性の違いが大きく、男性=クールかつグレイッシュ、女性=ウォームかつクリアという傾向が見られた。女性に関しては国による差異が大きいことも明らかになった。

そこでグローバルに製品のカラー展開をする場合、①同色相でもトーン(明度彩度)の調整はリージョナル対応(亜/欧米)において必須であり、②特に女性を主ターゲットとするならカラー設定はローカルな対応(国別)が重要であると言えるだろう。

参考文献

- 1) 千々岩英彰: 世界の色彩感情事典, 河出書房新社 (1999)
- 2) 斉藤美穂: アジアにおける色彩嗜好の国際比較研究, 日本色彩学会誌 16, 84-96 (1992)